



金融が国際競争力を有することは、家計にも企業にもひいては国民経済にとっても望ましい。

日本の金融資本市場、金融機関の国際的プレゼンスは低下。しかしわが国経済のグローバル化のために金融が果たす役割は大きい。金融・資本市場競争力強化プランが打ち出された今こそ変革の好機である。

問題意識 【3~5頁】

なぜ国際競争力がないのか？

- 間接金融に偏重した構造問題
- 金融機関の国際競争力
- 内向き志向と不十分な危機意識
- 金融機関に対する偏見や過剰な期待

金融が国際競争力を有することのメリット 【2~3頁】

- 国民の金融ストックのグローバルな有効活用
- 企業のグローバルな発展を支援
- サービス産業の中核としての金融

現状認識 【1~2頁】

グローバル化に遅れをとった日本の金融

- 止められないグローバル化の流れ
- 攻めの経営で将来の備えに

グローバルな環境変化に適合できない、内向き志向、間接金融偏重の金融構造、資本コスト・リターンのか考え方、金融機関の競争力、社会の偏見等、問題は多い... 日本の金融の問題は、閉鎖性と硬直性に集約できるのではないか。

総合的な施策が必要不可欠。提言主眼はプレイヤーの強化。フィールド整備だけで優れた金融サービスが約束されるわけではない。金融が国際化・高度化する中、仲介者たるプロの役割は一層重要。何より、イノベーションを発揮する主体は民間である。

将来展望と課題 【6~7頁】

具体的提言 【7~16頁】

金融の総合力強化に向けて

金融資本市場活性化とプレイヤー躍進への提言
- 金融イノベーションによるグローバル経営の実現に向けて -

オープンでイノベティブな金融の実現
「内なる国際化」
「外への国際化」

付加価値を生み出す金融の実現

- 開かれた質の高い金融資本市場の実現
- 金融機関経営の多様化と創造性発揮

市場の効率性と透明性を高め、アジアの国際金融センターを目指し、内なる国際化を推進。それが、ユーザー便益の向上と国民経済の利益に資する。

自由な戦略と創意工夫で国際競争を勝ち抜く日本発「グローバル金融機関」の登場を望む。外への国際化を推進し、日本の金融活性化の担い手となることを期待したい。

プレイヤーの強化

- 危機感をもったリーダーシップの発揮 【10頁】
- 規制時代の経営からの完全脱却 【10~11頁】
- 顧客志向の徹底 高付加価値ビジネスの強化
- 選択と集中 収益力強化とリスク管理の高度化
- グローバル化に相応しい経営の仕組み 【11~13頁】
- 英語の運用 人材活用 報酬・人事制度
- 組織づくり ガバナンス、コンプライアンス

フィールドの整備

- 金融・資本市場競争力強化プランの速やかな実行
- 貯蓄から投資を推進する税制
- 日本版 SEC の設立
- 日本市場の優位性の実現 【8~9頁】
- 金融商事高裁の設立

レフェリー機能の向上

- ベターレギュレーションへの期待
- 検査・監督のあり方
- 金融商品取引法のフォローアップ 【13~14頁】

ファンの成熟

- 金融リテラシーの向上
- 金融専門人材の育成
- 事業会社の経営課題
- メディア報道のあり方 【15~16頁】